

授業科目		臨床美術【講義】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	1	学期	後期	単位	2	時間	32	担当教員	小野寺 良枝

科目の特徴 (ねらい)	1. 脳の活性化を目的とした芸術療法である臨床美術について学ぶ。 2. 臨床美術におけるコミュニケーション理論を学び、異年齢間におけるコミュニケーションについての知識を得る。 3. 制作を通して自身の心の開放を図る。
成績評価	出席・授業態度・レポート等総合評価する。 ※上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容
1	ガイダンス 臨床美術の基礎知識:制作体験「色と線で遊ぼう」
2	臨床美術基礎知識 臨床美術の制作基礎知識(1):制作体験「りんごの量感画」
3	臨床美術基幹 臨床美術の沿革(効果と実際):右脳モードで描く絵と左脳モードで描く絵の違いについて
4	臨床美術アートプログラム制作 臨床美術の制作基礎知識(2):制作体験「石のアナログ画」
5	臨床美術アートプログラム制作 臨床美術の制作基礎知識(3):「思い出に空を描く」
6	存在論的人間観 対人関係構築の基礎:「いてくれてありがとう」と言える勇氣
7	臨床美術的コミュニケーション(非言語) 臨床美術の制作基礎知識(4)・コミュニケーション理論(非言語):制作体験「二人で描くアナログ画」
8	臨床美術アートプログラム制作 「私の感性地図」・グループワーク
9	臨床美術コミュニケーション(言語) 臨床美術の制作基礎知識(6-1):「立体のかぼちゃ」
10	臨床美術アートプログラム制作 臨床美術の制作基礎知識(6-2):「立体のかぼちゃ」
11	臨床美術アートプログラム制作 臨床美術の制作基礎知識(5)「鉛筆のアナログ画」
12	臨床美術の現場とアートプログラム制作 臨床美術の現場:臨床美術も制作基礎知識(7)「色面マチエール」
13	臨床美術アートプログラム制作 臨床美術の制作基礎知識(8):粘土制作「土偶」
14	臨床美術アートプログラム制作 臨床美術の制作基礎知識(9):「五感のアナログ画」(聴覚・味覚)
15	臨床美術アートプログラム制作 臨床美術の制作基礎知識(10):「サツマイモの量感画」
16	総括 臨床美術学びの振り返り

教科書 持参する物	臨床美術～認知症治療としてのアートセラピー～ 日本地域社会研究所 はさみ・スティックのり・ウェットティッシュ・ティッシュ 割りばしペン(割りばしの先を鉛筆削りで削ったもの)
--------------	--

授業科目		心理学【講義】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	2	学期	前期	単位	2	時間	32	担当教員	石岡 れい子

科目の特徴 (ねらい)	柔道整復師として職業上必要となるであろう知識を習得するのが一番の目標である。本科目では、一般教養としても心理学及び専門職として必要な心理学を学ぶ。実際の講義では、発達に沿った心理学や精神医学などの心理学の知識を学ぶ、カウンセリング技術で他者の接し方を考え、心理テストを通して自己理解を深めていく。
成績評価	定期試験の成績、平常点(提出物等)、出席率、授業参加態度によって総合的に評価する。

回数	授業内容
1	オリエンテーション 知覚
2	学習・記憶
3	やる気の心理
4	動機づけ
5	感情
6	知能
7	思考
8	発達(1)－児童期まで
9	発達(2)－青年期以降
10	人間関係
11	集団
12	精神的健康
13	カウンセリング
14	心理学の応用分野(1)
15	心理学の歴史と研究法
16	定期試験

教科書	ベーシック心理学 第2版 医歯薬出版株式会社
-----	------------------------

授業科目		生命科学Ⅰ【講義】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	1	学期	前期	単位	2	時間	32	担当教員	榎本 良孝

科目の特徴 (ねらい)	生物や生命現象・自然に対する関心や探求心を高め、生命科学の基本的な概念や原理・法則を学ぶ。特にヒトの体の成り立ち、仕組み、働きなどの知識や理解を深めることにより医療従事者としての心構えや能力を養うことをねらいとする。本授業では、「生物の分類」、「生体物質」、「細胞」、「細胞分裂」、「配偶子形成」、「酵素」、「呼吸とATP」、「筋肉」、「感覚器」、「体液」に関する基本的な知識や理解を深める。
成績評価	各分野の理解度を総合的に評価する。100点満点で試験を行い60点以上を合格とする。不合格者については再試験を実施し60点以上を合格とする。

回数	授業内容
1	ガイダンス、原核生物と真核生物、ウイルス
2	生体を構成する物質
3	細胞の構造と働き
4	細胞膜の構造と働き
5	体細胞分裂
6	減数分裂、体細胞分裂と減数分裂の比較
7	動物の配偶子形成、酵素とその働き
8	代謝とエネルギー、ATPの構造と働き
9	異化、呼吸のしくみ
10	筋肉の種類・構造、筋収縮のしくみ
11	筋収縮とそのエネルギー
12	刺激の受容(1)
13	刺激の受容(2)
14	体液とその働き(1)
15	体液とその働き(2)
16	定期試験

教科書	改訂新課程二訂版 スクエア最新図説生物 株式会社第一学習社
-----	-------------------------------

授業科目		生命科学Ⅱ						【講義】	学 科	スポーツ柔整学科
学年	1	学期	後期	単位	2	時間	32	担当教員	榎本 良孝	

科目の特徴 (ねらい)	生物や生命現象・自然に対する関心や探求心を高め、生命科学の基本的な概念や原理・法則を学ぶ。特にヒトの体の成り立ち、仕組み、働きなどの知識や理解を深めることにより医療従事者としての心構えや能力を養うことをねらいとする。本授業では、「肝臓」、「腎臓」、「神経」、「ホルモン」、「ホメオスタシス」、「免疫」、「生殖と発生」、「遺伝」に関する基本的な知識や理解を深める。
成績評価	各分野の理解度を総合的に評価する。100点満点で試験を行い60点以上を合格とする。不合格者については再試験を実施し60点以上を合格する。

回数	授業内容
1	ガイダンス、肝臓の構造と働き
2	腎臓の構造と働き
3	神経による調節(1)
4	神経による調節(2)
5	神経による調節(3)
6	ホルモンによる調節(1)
7	ホルモンによる調節(2)
8	ホメオスタシス(1)
9	ホメオスタシス(2)
10	免疫(1)
11	免疫(2)
12	生殖と発生
13	発生と誘導
14	遺伝の法則
15	二遺伝子雑種、検定交雑
16	定期試験

教科書	改訂新課程二訂版 スクエア最新図説生物	株式会社第一学習社
-----	---------------------	-----------

授業科目		生命科学Ⅲ【講義】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	2	学期	前期	単位	2	時間	32	担当教員	榎本 良孝

科目の特徴 (ねらい)	生物や生命現象・自然に対する関心や探求心を高め、生命科学の基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、特にヒトを中心とした生命科学現象について知識や理解を深める事を目標とする。
成績評価	定期試験、学習態度 ※上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容
1	ガイダンス、細胞分裂
2	細胞周期
3	発生と分化(1)
4	発生と分化(2)
5	老化
6	遺伝
7	染色体とゲノム
8	DNA
9	遺伝子の発現
10	遺伝子工学
11	様々な環境問題(1)
12	様々な環境問題(2)
13	地球規模で進行する環境問題
14	おだやかなライフスタイルを確立するために
15	講義のまとめ
16	定期試験

教科書	改訂新課程二訂版 スクエア最新図説生物	株式会社第一学習社
-----	---------------------	-----------

授業科目		外国語(英語)【講義】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	1	学期	前期	単位	2	時間	32	担当教員	富岡 義勝

科目の特徴 (ねらい)	高校まで勉強してきた英文法もう一度見直し、英語の一層の理解と実践的英会話力の獲得を目標とします。『リハビリテーション英会話』は適宜使用しますので必ず持ってきてください。
成績評価	期末筆記試験(筆記)100% * 上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容
1	イントロダクション
2	Unit1 品詞について
3	Unit2 文の要素
4	Unit3 文型(1)
5	Unit4 文型(2)
6	Unit5 時制について
7	Unit6 進行形と完了形
8	Unit7 受動態
9	Unit8 助動詞について
10	Unit9 不定詞について
11	Unit10 分詞
12	Unit11 動名詞
13	Unit12 比較を中心に
14	Unit13 関係代名詞
15	Unit14 関係副詞
16	定期試験

授業について の注意点	予習・復習、授業を通じて疑問点は必ず解消するよう努力して下さい。 また、授業には英和辞典持参のこと。(電子辞書可。スマホの辞書機能は不可)
----------------	--

教科書	Building English Essentials 伝えるための英語力 株式会社南雲堂 PT、OTが書いたりハビリテーション英会話 株式会社メジカルビュー社 * 補足教材は適宜プリントにして配布します。
-----	---

授業科目		保健体育Ⅰ【実技】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	1	学期	通年	単位	4	時間	128	担当教員	角田 誠

科目の特徴 (ねらい)	フィットネス基礎理論を理解し、健康と医療のつながりを習得 健康寿命の延伸と生活の質の向上(QOL)の運動指導法の習得 運動器の基礎解剖学、運動生理学の知識習得 ストレッチ・レジスタンス・エアロビックダンスの理論・実技の習得 グループエクササイズ指導の心得を習得
成績評価	定期試験、中間試験および学習態度 * 上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容	回数	授業内容	回数	授業内容
1	オリエンテーション	23	体力学・トレーニング科学・運動処方 (METs、エネルギー消費量の推定)	45	試験対策 (フィットネス基礎理論、グループエクササイズ指導理論)
2	第1章フィットネス概論 (フィットネスとは、新型コロナウイルス)	24	第5章 運動と栄養・体重管理 (食事と栄養、日本人の影響状況)	46	試験対策 (フィットネス基礎理論、グループエクササイズ指導理論)
3	フィットネス概論 (日本の人口動態・日本人における主要な健康問題)	25	運動と栄養・体重管理 (身体組成・BMI・体重管理)	47	試験(中間)
4	フィットネス概論 (身体活動と健康・高齢化)	26	第6章 心と運動 (運動と心理的効用、運動の開始と継続)	48	まとめ復習
5	フィットネス概論 (健康日本21)	27	心と運動 (行動変容の理論)	49	ADBIオリエンテーション
6	フィットネス概論 (健康日本21)	28	心と運動 (運動とストレス)	50	有酸素運動の基礎知識 身体運動のエネルギー供給機構 実施効果、トレーニングの条件
7	フィットネス概論 (健康づくりのための身体活動・運動ガイド2023)	29	第7章 運動と安全管理、事故・傷害の予防 (運動中止の条件、運動の障害と傷害)	51	有酸素運動の基礎知識 評価法、目標心拍数、消費量、加齢変化
8	フィットネス概論 (日本の健診制度)	30	運動と安全管理、事故・傷害の予防 (怪我の応急処置、RICE)実技を含む	52	有酸素運動の基礎知識 クーパー理論
9	フィットネス概論 (特定検診・特定保健指導)	31	運動と安全管理、事故・傷害の予防 (運動に関わる内科的な障害・疾患の対応)	53	エアロビックダンスの歴史と運動特性 日本のエアロの変遷、発展と定着
10	第2章 運動器の基礎解剖学 (骨格・骨)	32	運動と安全管理、事故・傷害の予防 (倒れている人への対応、AED)実技も含む	54	エアロビックダンスの歴史と運動特性 エアロビックダンスエクササイズ特徴 研究結果
11	運動器の基礎解剖学 (関節の種類と構造)	33	フィットネス基礎理論まとめ	55	エアロビックダンスエクササイズ基本の動き 良い姿勢、運動中の姿勢、動きの注意点 下肢・上肢の動き
12	運動器の基礎解剖学 (体幹)	34	グループエクササイズ指導理論 グループエクササイズ指導の定義と指導者の役割	56	エアロビックダンスエクササイズ基本の動き 上肢と下肢の動きの組み合わせ 全身運動としての調和
13	運動器の基礎解剖学 (神経系)	35	グループエクササイズ指導の準備	57	エアロビックダンスエクササイズのプログラミング、インストラクターの役割 効果的で安全なプログラムと運動強度
14	第3章 運動生理学 (骨格筋の構造と筋活動の仕組み)	36	グループエクササイズ指導の実際、指導の循環 コミュニケーションスキル	58	エアロビックダンスエクササイズのプログラミング 運動強度を変化させる要因、動きの難度、プログラムの基本構成

15	運動生理学 (運動のためのエネルギー機構)	37	グループエクササイズ指導の実際 動きの学習段階、指導の向き、 ウォーミングアップとクールダウン	59	エアロビックダンスエクササイズのプロ グラミング ウォームアップ・メインエク ササイズ、クールダウンの目的と内容
16	運動生理学 (呼吸器、循環器の機能)	38	指導の動き	60	プログラミング:動きの展開、コリオグラ フィーの作り方、音楽の役割、対象者の 応じたプログラム
17	第4章 体力学・トレーニン グ科学・運動処方 (体力・最大酸素摂取量)	39	グループエクササイズのク ラス運営	61	エアロビックダンスエクササイズ指導法 指導の循環、動きを習得させる指導法 コリオグラフィーの指導法
18	体力学・トレーニング科 学・運動処方 (年齢と体力・男女差)	40	グループエクササイズフィットネス インストラクターのプロになるため の心得・活動のための必要経費と 税金	62	運動環境の整備:ウエア、 室温、床、用具 音響
19	体力学・トレーニング科 学・運動処方 (有酸素運動・無酸素運動実技)	41	グループエクササイズフィットネス インストラクターのプロになるため の心得・担当クラスの内容と確認 事項	63	実技試験対策
20	体力学・トレーニング科 学・運動処方 (トレーニングの原理と原則)	42	グループエクササイズフィットネス インストラクターのプロになるため の心得・プロとしての行動	64	定期試験(JAFA)
21	体力学・トレーニング科 学・運動処方 (運動処方の要素)	43	グループエクササイズフィットネス インストラクターのプロになるため の心得・仕事の場を広げる		
22	体力学・トレーニング科 学・運動処方 (運動強度の表し方)	44	グループエクササイズフィットネス インストラクターのプロになるため の心得・まとめ		

教科書	フィットネス基礎理論 グループエクササイズ指導理論 エアロビックダンスエクササイズ指導理論				
-----	---	--	--	--	--

授業科目		保健体育Ⅱ【実技】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	1	学期	後期	単位	1	時間	32	担当教員	角田 誠

科目の特徴 (ねらい)	パーソナルトレーニングの理解と実践能力の習得 トレーナーとして多様性の能力を身につける トレーナーとしてクライアントに対しての安全性を理解させる トレーナーとして施設基準、経営能力を習得
成績評価	定期試験、学習態度 * 上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容
1	第4章 バイオメカニクス(力学に基礎)
2	第4章 バイオメカニクス(身体動作のバイオメカニクス)
3	第4章 バイオメカニクス(レジスタンスエクササイズ of バイオメカニクス)
4	第5章 レジスタンストレーニングに対する反応と適応(急性反応と長期的適応)
5	第9章 クライアントの面談と健康評価(面談と健康評価の目的、スクリーニング)
6	第11章 体力評価法と評価基準(体力評価法・バイタルサイン)
7	第11章 体力評価法と評価基準(体力評価法実技)
8	第12章 柔軟性とウォーミングアップの概念および自重、スタビリティボールエクササイズ テクニック
9	第13章 レジスタンスエクササイズテクニック
10	第14章 心臓血管系エクササイズテクニック
11	第15章 レジスタンストレーニングのプログラムデザイン
12	第17章 プライオメトリックトレーニングのプログラムデザインとテクニック
13	第18章 前青年期の子ども、高齢者、妊婦のクライアント
14	第24章 施設と機器の配置およびメンテナンス
15	第25章 パーソナルトレーナーの専門的、法的および倫理的責任
16	定期試験

教科書	NSCA パーソナルトレーナーのための基礎知識(第3版) ストレンクス & コンデショニング実技編
-----	--

授業科目		解剖学Ⅰ【講義】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	1	学期	通年	単位	4	時間	64	担当教員	大久保 英俊

科目の特徴 (ねらい)	初めて医学を学ぶ初学生にとって、人体の正常な構造と機能を理解することは他の基礎科目や専門科目を理解するに当たって必要不可欠なものである。この授業の目的は、解剖学(人体の構造)を十分に理解し習得することで、医学を学ぶ上での基礎を確立することである。
成績評価	定期試験、中間試験および学習態度 * 上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容	回数	授業内容
1	人体の区分、解剖学的姿勢	17	体幹の骨(脊柱①)
2	解剖学用語、骨の形状による分類	18	体幹の骨(脊柱②)
3	骨の構造、骨の発生と成長	19	体幹の骨(脊柱③)
4	骨学総論、骨の連結	20	体幹の骨(胸骨・肋骨①)
5	上肢の骨(上肢帯①)	21	体幹の骨(胸骨・肋骨②)
6	上肢の骨(上肢帯②)	22	体幹の骨(復習)
7	上肢の骨(自由上肢骨①)	23	①関節の動き、基本面和基本軸
8	上肢の骨(自由上肢骨②)	24	②関節の動き、基本面和基本軸
9	上肢の骨(復習)	25	関節の分類
10	下肢の骨(自由下肢骨①)	26	頭蓋(脳頭蓋①)
11	下肢の骨(自由下肢骨②)	27	頭蓋(脳頭蓋②)
12	下肢の骨(下肢帯①)	28	頭蓋(顔面頭蓋①)
13	下肢の骨(下肢帯②)	29	頭蓋(顔面頭蓋②)
14	下肢の骨(下肢帯③)	30	頭蓋(顔面頭蓋③)
15	下肢の骨(復習)	31	頭蓋(復習)
16	中間試験	32	定期試験

教科書	解剖学 改訂第2版〔全国柔道整復学校協会監修〕 医歯薬出版株式会社
-----	-----------------------------------

授業科目		解剖学Ⅱ【講義】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	1	学期	通年	単位	4	時間	64	担当教員	青木 良仁

科目の特徴 (ねらい)	初めて医学を学ぶ初学生にとって、人体の正常な構造と機能を理解することは他の基礎科目や専門科目を理解するに当たって必要不可欠なものである。この授業の目的は、解剖学(人体の構造)を十分に理解し習得することで、医学を学ぶ上での基礎を確立することである。
成績評価	定期試験、中間試験および学習態度 * 上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容	回数	授業内容
1	起始・停止、筋の作用	17	上肢の筋①
2	筋の補助装置、神経・運動単位	18	上肢の筋②
3	頸部の筋①	19	上肢の筋③
4	頸部の筋②	20	上肢の筋④
5	胸部の筋①	21	上肢の筋⑤
6	胸部の筋②	22	上肢の筋⑥
7	胸部の筋③	23	下肢帯の筋①
8	腹部の筋①	24	下肢帯の筋②
9	腹部の筋②	25	下肢帯の筋③
10	背部の筋①	26	下肢の筋①
11	背部の筋②	27	下肢の筋②
12	背部の筋③	28	下肢の筋③
13	上肢帯の筋①	29	下肢の筋④
14	上肢帯の筋②	30	下肢の筋⑤
15	復習	31	復習
16	中間試験	32	定期試験

教科書	解剖学 改訂第2版〔全国柔道整復学校協会監修〕	医歯薬出版株式会社
-----	-------------------------	-----------

授業科目		解剖学Ⅲ【講義】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	2	学期	通年	単位	4	時間	64	担当教員	三上 貴浩

科目の特徴 (ねらい)	初めて医学を学ぶ初学生にとって、人体の正常な構造と機能を理解することは他の基礎科目や専門科目を理解するに当たって必要不可欠なものである。この授業の目的は、解剖学(人体の構造)を十分に理解し習得することで、医学を学ぶ上での基礎を確立することである。
成績評価	定期試験、中間試験および学習態度 ※上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容	回数	授業内容
1	脈管系(総論)	17	内臓系(消化器)
2	脈管系(心臓)	18	
3		19	
4		20	
5	動脈系	21	内臓系(呼吸器)
6		22	
7		23	
8		24	
9	静脈・リンパ管系	25	内臓系(泌尿器)
10		26	
11		27	
12		28	
13	静脈・リンパ管系	29	内臓系(生殖器)
14		30	
15		31	
16	中間試験	32	定期試験

教科書	解剖学 改訂第2版〔全国柔道整復学校協会監修〕	医歯薬出版株式会社
-----	-------------------------	-----------

授業科目		解剖学Ⅳ						【講義】	学 科	スポーツ柔整学科
学年	2	学期	通年	単位	4	時間	64	担当教員	内藤 順平	

科目の特徴 (ねらい)	初めて医学を学ぶ初学生にとって、人体の正常な構造と機能を理解することは他の基礎科目や専門科目を理解するに当たって必要不可欠なものである。この授業の目的は、解剖学(人体の構造)を十分に理解し習得することで、医学を学ぶ上での基礎を確立することである。
成績評価	定期試験、中間試験および学習態度 ※上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容	回数	授業内容
1	組織学	17	神経系(基礎)
2	内分泌系	18	
3		19	神経系(脳)
4		20	
5		21	
6		22	
7		23	神経系(脊椎)
8		24	
9	感覚器系	25	神経系(末梢神経)
10		26	
11		27	
12		28	
13		29	
14		30	
15		31	
16	中間試験	32	定期試験

教科書	解剖学 改訂第2版〔全国柔道整復学校協会監修〕 医歯薬出版株式会社
-----	-----------------------------------

授業科目		生理学Ⅰ【講義】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	1	学期	通年	単位	4	時間	64	担当教員	青木 良仁

科目の特徴 (ねらい)	初めて医学を学ぶ初学生にとって、人体の正常な構造と機能を理解することは他の基礎科目や専門科目を理解するに当たって必要不可欠なものである。 この授業の目的は、生理学を十分に理解し修得することで、医学を学ぶ上での基礎を確立することである。
成績評価	定期試験、中間試験および学習態度 ※上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容	回数	授業内容
1	生理学の基礎	17	感覚の生理
2		18	
3		19	
4	筋の生理	20	内分泌
5		21	
6		22	
7	神経の生理	23	生殖
8		24	
9		25	
10		26	
11		27	
12	運動の生理	28	定期試験
13		29	
14		30	
15		31	
16	中間試験	32	

教科書	生理学 改訂第4版(全国柔道整復学校監修) 株式会社南江堂
-----	-------------------------------

授業科目		生理学Ⅱ【講義】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	2	学期	通年	単位	4	時間	64	担当教員	松本 範雄

科目の特徴 (ねらい)	初めて医学を学ぶ初学生にとって、人体の正常な構造と機能を理解することは他の基礎科目や専門科目を理解するに当たって必要不可欠なものである。この授業の目的は、生理学を十分に理解し修得することで、医学を学ぶ上での基礎を確立することである。
成績評価	定期試験、中間試験および学習態度 ※上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容	回数	授業内容
1	ニューロン・シナプス	17	筋肉
2		18	
3	Powerpoint (ニューロン・シナプス)	19	Powerpoint (筋肉)
4	国試問題解説(ニューロン・シナプス)	20	国試問題解説 (筋肉)
5	神経系の分類・末梢神経系	21	運動の生理学
6	末梢神経系: 自律神経	22	
7	Powerpoint (末梢神経)	23	脳波・睡眠
8	国試問題解説(末梢神経)	24	Powerpoint (運動・脳波)
9	神経系: 中枢神経(脊髄)	25	国試問題解説 (運動・脳波)
10	神経系: 中枢神経(反射)	26	感覚: 総論、体性感覚
11	神経系: 中枢神経(延髄・中脳)	27	感覚: 体性感覚
12	神経系: 中枢神経(間脳・大脳辺縁系)	28	感覚: 特殊感覚
13	神経系: 中枢神経(大脳皮質)	29	
14	Powerpoint (中枢神経)	30	Powerpoint (感覚)
15	国試問題解説(中枢神経)	31	国試問題解説 (感覚)
16	中間試験	32	定期試験

教科書	生理学 改訂第4版(全国柔道整復学校監修) 株式会社南江堂
-----	-------------------------------

授業科目		高齢者の生理学 【講義】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	3	学期	後期	単位	1	時間	16	担当教員	青木 良仁

科目の特徴 (ねらい)	2025年に少子高齢化社会はピークを迎え、柔道整復師も本来の医療保険適応業務である外傷治療に加えて介護保険の機能訓練指導員の業務を適切に行う為、高齢者の特徴についての学習が不可欠となっている。本講義では、高齢者の生理学について成人との差違を中心に学んでいく。
成績評価	定期試験、学習態度 * 上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容
1	細胞、組織の加齢現象
2	
3	高齢者の生理学的特徴
4	
5	
6	運動と加齢
7	
8	定期試験

教科書	生理学 改訂第4版(全国柔道整復学校監修) 株式会社南江堂
-----	-------------------------------

授業科目		競技者の生理学【講義】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	3	学期	後期	単位	1	時間	16	担当教員	青木 良仁

科目の特徴 (ねらい)	スポーツ人口の増加に伴い、スポーツ外傷、スポーツ傷害が多く見られるようになった現代の日本において、従来の生理学に加え、競技者の生理学を学習することは必須となっている。ベースとなる生理学の基礎を確認しつつ、競技者の生理を学ぶ。
成績評価	定期試験、学習態度 * 上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容
1	運動と身体発達
2	
3	
4	
5	競技者の生理的特徴
6	
7	
8	定期試験

教科書	生理学 改訂第4版(全国柔道整復学校監修) 株式会社南江堂
-----	-------------------------------

授業科目		運動学【講義】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	3	学期	前期	単位	2	時間	32	担当教員	青木 良仁

科目の特徴 (ねらい)	本学科は柔道整復師に求められる治療の知識と技術を習得し、スポーツトレーナーの資格と超高齢社会で必要とされる介護系の資格を取得することができるため、医療を通じて人々の支えとなり社会貢献できる人材の育成を目指す。
成績評価	定期試験の成績および出席状況による。

回数	授業内容
1	運動の目的
2	運動の表し方、身体運動と力学
3	運動器の構造と機能
4	神経の構造と機能
5	運動感覚、反射と随意運動
6	四肢と体幹運動(上肢帯と上腕)
7	四肢と体幹運動(前腕と手)
8	四肢と体幹運動(股関節)
9	四肢と体幹運動(膝関節)
10	四肢と体幹運動(足関節と足)
11	四肢と体幹運動(脊柱と頸椎)
12	四肢と体幹運動(胸椎、腰椎、骨盤、頭部)
13	姿 勢
14	歩 行
15	運動発達、運動学習
16	定期試験

教科書	運動学 改訂第3版[全国柔道整復学校協会監修]	医歯薬出版株式会社
-----	-------------------------	-----------

授業科目		病理学概論【講義】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	2	学期	前期	単位	2	時間	32	担当教員	青木 良仁

科目の特徴 (ねらい)	柔道整復師を目指して学習している学生諸氏が、病理学の勉強を通して疾病における細胞、組織、臓器の形態変化を理解し、将来の医療従事者としての素養および医学的知識の基礎となるように、解剖生理学・組織学も含めた総合的な理解を深める事を目的とする。
成績評価	定期試験、学習態度 ※上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容
1	病理学とは
2	疾病の一般
3	細胞障害
4	
5	循環障害
6	
7	進行性病変と細胞、組織の適応
8	
9	炎症
10	免疫異常、アレルギー
11	
12	腫瘍
13	先天性異常
14	
15	病因
16	定期試験

教科書	病理学概論 改訂第3版[全国柔道整復学校協会監修]	医歯薬出版株式会社
-----	---------------------------	-----------

授業科目		一般臨床医学Ⅰ【講義】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	2	学期	前期	単位	2	時間	32	担当教員	三上 貴浩

科目の特徴 (ねらい)	柔道整復師が施術できる業務範囲は負傷原因が明らかにされた外傷であり、おのずと施術範囲は制限されるが、現代医学の病理学的背景に裏付けられた疾病分類など幅広い知識を身につけ、国家資格として担うべき十分なレベルを満たし、社会に貢献できる柔道整復師を育成することを目的とする。
成績評価	定期試験、学習態度 ※上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容
1	問診、視診、打診、聴診、触診(P1～P52)
2	
3	
4	
5	
6	
7	生命徴候:バイタルサイン(P52～P60)
8	
9	
10	
11	知覚検査、反射検査、代表的な臨床症状、検査法(P60～P97)
12	
13	
14	
15	
16	定期試験

教科書	一般臨床医学 改訂第3版[全国柔道整復学校協会監修]	医歯薬出版株式会社
-----	----------------------------	-----------

授業科目		一般臨床医学Ⅱ 【講義】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	3	学期	前期	単位	2	時間	32	担当教員	村上 礼一

科目の特徴 (ねらい)	柔道整復師が施術できる業務範囲は負傷原因が明らかにされた外傷であり、おのずと施術範囲は制限されるが、現代医学の病理学的背景に裏付けられた疾病分類など幅広い知識を身につけ、国家資格をして担うべき十分なレベルを満たし、社会に貢献出来る柔道整復師を育成することを目的とする。
成績評価	定期試験、学習態度 ※上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容
1	呼吸器疾患(P99～P114)
2	
3	循環器疾患(P114～P129)
4	
5	消化器疾患(P129～P156)
6	代謝疾患(P156～P171)
7	
8	内分泌疾患(P172～P185)
9	
10	血液・造血器疾患(P185～P196)
11	
12	腎・尿路疾患(P198～P218)
13	神経疾患(P220～P236)
14	感染症(P237～P249)
15	リウマチ・膠原病・アレルギー、環境要因による疾患(P251～P262)
16	定期試験

教科書	一般臨床医学 改訂第3版[全国柔道整復学校協会監修] 医歯薬出版株式会社
-----	--------------------------------------

授業科目		一般臨床医学Ⅱ 【講義】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	2	学期	後期	単位	2	時間	32	担当教員	三上 貴浩

科目の特徴 (ねらい)	柔道整復師が施術できる業務範囲は負傷原因が明らかにされた外傷であり、おのずと施術範囲は制限されるが、現代医学の病理学的背景に裏付けられた疾病分類など幅広い知識を身につけ、国家資格をして担うべき十分なレベルを満たし、社会に貢献出来る柔道整復師を育成することを目的とする。
成績評価	定期試験、学習態度 ※上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容
1	呼吸器疾患(P99～P114)
2	
3	循環器疾患(P114～P129)
4	
5	消化器疾患(P129～P156)
6	代謝疾患(P156～P171)
7	
8	内分泌疾患(P172～P185)
9	
10	血液・造血器疾患(P185～P196)
11	
12	腎・尿路疾患(P198～P218)
13	神経疾患(P220～P236)
14	感染症(P237～P249)
15	リウマチ・膠原病・アレルギー、環境要因による疾患(P251～P262)
16	定期試験

教科書	一般臨床医学 改訂第3版[全国柔道整復学校協会監修] 医歯薬出版株式会社
-----	--------------------------------------

授業科目		リハビリテーション医学 【講義】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	3	学期	後期	単位	2	時間	32	担当教員	漆畑 俊哉・新岡 大和

科目の特徴 (ねらい)	医療技術の進歩によってリハビリテーションの対象や時期が変わり、それに伴ってリハビリテーションを取り巻く環境は日々変わり続けている。対象者のQOLを高めるためにはリハビリテーション医学について、幅広い知識と技術が必要である。本科目ではリハビリテーション医学について、その基礎的知識から評価・診断・治療、その実際までを講義する。
成績評価	定期試験、学習態度、出欠状況 ※上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容
1	リハビリテーションの概念と歴史・リハビリテーション医学
2	リハビリテーション医学と関連職種・リハビリテーションと福祉
3	リハビリテーション医学の基礎医学①
4	リハビリテーションの基礎医学②
5	リハビリテーション医学の評価と診断①
6	リハビリテーション医学の評価と診断②
7	リハビリテーション医学の評価と診断③
8	リハビリテーション医学の評価と診断④
9	リハビリテーションの治療①
10	リハビリテーションの治療②
11	リハビリテーションの治療③
12	リハビリテーションの治療④
13	リハビリテーションの実際①
14	リハビリテーションの実際②
15	リハビリテーションの実際③
16	定期試験

教科書	リハビリテーション医学 改訂第4版[全国柔道整復学校協会監修] 株式会社南江堂
-----	--

授業科目		リハビリテーション医学 【講義】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	2	学期	後期	単位	2	時間	32	担当教員	漆畑 俊哉・新岡 大和

科目の特徴 (ねらい)	医療技術の進歩によってリハビリテーションの対象や時期が変わり、それに伴ってリハビリテーションを取り巻く環境は日々変わり続けている。対象者のQOLを高めるためにはリハビリテーション医学について、幅広い知識と技術が必要である。本科目ではリハビリテーション医学について、その基礎的知識から評価・診断・治療、その実際までを講義する。
成績評価	定期試験、学習態度、出欠状況 ※上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容
1	リハビリテーションの概念と歴史・リハビリテーション医学
2	リハビリテーション医学と関連職種・リハビリテーションと福祉
3	リハビリテーション医学の基礎医学①
4	リハビリテーションの基礎医学②
5	リハビリテーション医学の評価と診断①
6	リハビリテーション医学の評価と診断②
7	リハビリテーション医学の評価と診断③
8	リハビリテーション医学の評価と診断④
9	リハビリテーションの治療①
10	リハビリテーションの治療②
11	リハビリテーションの治療③
12	リハビリテーションの治療④
13	リハビリテーションの実際①
14	リハビリテーションの実際②
15	リハビリテーションの実際③
16	定期試験

教科書	リハビリテーション医学 改訂第4版[全国柔道整復学校協会監修] 株式会社南江堂
-----	--

授業科目		柔道整復術の適応【講義】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	3	学期	後期	単位	2	時間	32	担当教員	三上 貴浩

科目の特徴 (ねらい)	医師と同様に、急性外傷に対する柔道整復師の役割は大きい。特に骨折、脱臼の整復は医師と柔道整復のみに許されている。重大な後遺症や時に生命予後を左右する急性期症状に対して適切な判断ができるように種々の病態を統合的に学習していく。
成績評価	定期試験、学習態度 ※上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	柔道整復術の適否を考える
3	損傷に類似した症状を示す疾患
4	血管損傷を伴う損傷
5	末梢神経損傷を伴う損傷
6	脱臼骨折
7	外出血を伴う損傷
8	病的骨折および脱臼
9	意識障害を伴う損傷
10	脊髄症状のある損傷
11	呼吸運動障害を伴う損傷
12	内臓損傷の合併が疑われる損傷
13	高エネルギー外傷
14	医用画像の理解
15	医用画像の理解
16	定期試験

教科書	施術の適応と医用画像の理解[全国柔道整復学校協会監修] 株式会社南江堂
-----	--

授業科目		衛生学・公衆衛生学【講義】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	1	学期	後期	単位	2	時間	32	担当教員	米満 正美

科目の特徴 (ねらい)	開業医と同様に柔道整復師も地域の公衆衛生活動の推進者となることが期待されており、この分野の十分な知識の習得と理解が不可欠となっている。ここでは、卒業後の地域の公衆衛生活動に寄与することを念頭に置きつつ、基礎的知識の確実な習得及び理解を目的とする。
成績評価	定期試験、学習態度 ※上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容
1	衛生学・公衆衛生学の歴史と公衆衛生活動
2	健康の概念
3	疫学
4	疾病予防と健康管理
5	感染症の予防
6	消毒
7	環境保健
8	母子保健
9	学校保健
10	産業保健
11	成人・老人保健
12	精神保健
13	生活環境・食品衛生活動
14	地域保健と国際保健
15	衛生行政と保健医療の制度
16	定期試験

教科書	衛生学・公衆衛生学 改訂第6版[全国柔道整復学校協会監修] 株式会社 南江堂
-----	---

授業科目		関係法規【講義】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	3	学期	前期	単位	2	時間	32	担当教員	中村 崇男

科目の特徴 (ねらい)	柔道整復師は厚生労働大臣の免許を受けた業務独占資格であり、その業務に従事するにあたり法令を理解し遵守しなければならないことは言うまでもない。ここでは、柔道整復師法(罰則を含む)および医療を中心にその関係法規の学習を通して、法の種類や体系などの基本的理解および医療従事者としての倫理観の形成を目的とする。
成績評価	定期試験、学習態度 ※上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容
1	法の意義
2	法の体系
3	柔道整復師法および柔道整復に関する法規
4	柔道整復師と患者の権利
5	総則
6	免許
7	柔道整復師試験
8	業務
9	施術所
10	雑則
11	罰則
12	指定登録機関及び指定試験機関
13	附則
14	医療法
15	医療従事者の資格法、その他の関係法規
16	定期試験

教科書	関係法規 2025年版 [全国柔道整復学校協会監修] 医歯薬出版株式会社
-----	--------------------------------------

授業科目		柔道Ⅰ【実技】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	1	学期	後期	単位	1	時間	32	担当教員	高田 直樹（柔道整復師）

科目の特徴 (ねらい)	柔道整復師として柔道を正しく理解するため、柔道技術の構造、精神および体育的価値を中心に講義、実習する。礼法、受身、基本的、对人的技能、審判法、形などを扱う。授業は初心者でも十分に理解できるような制度を前提にするが、内容によっては習熟度に応じたグループ学習も取り入れることがある。
成績評価	定期試験、学習態度 * 上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容
1	柔道小史、受身
2	出足払い、膝車、支釣込足
3	浮き落とし
4	背負投
5	肩車
6	浮腰
7	払腰
8	釣込腰
9	送足払
10	支釣込足
11	内股
12	投げの形、打ち込み、投げ込み、乱取り
13	
14	
15	
16	定期試験

教科書	南江堂 【全国柔道整復学校協会 監修】柔道「web動画付」
-----	-------------------------------

授業科目		柔道Ⅱ【実技】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	2	学期	通年	単位	2	時間	64	担当教員	高田 直樹（柔道整復師）

科目の特徴 (ねらい)	柔道整復師として柔道を正しく理解するため、柔道技術の構造、精神および体育的価値を中心に講義、実習する。礼法、受身、基本的、对人的技能、審判法、形などを扱う。授業は初心者でも十分に理解できるような制度を前提にするが、内容によっては習熟度に応じたグループ学習も取り入れることがある。
成績評価	定期試験、学習態度 * 上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容	回数	授業内容
1	受身	17	受身、礼法、足さばき
2	出足払い、膝車、支釣込足	18	受身、礼法、投げの形(浮き落とし)
3	浮き落とし	19	受身、礼法、投げの形(浮き落とし)乱取
4	背負投	20	受身、礼法、投げの形 (浮き落とし・一本背負い)
5	肩車	21	受身、礼法、投げの形 (浮き落とし・一本背負い)
6	浮腰	22	受身、礼法、投げの形(肩車)乱取
7	払腰	23	受身、礼法、投げの形(肩車)乱取
8	釣込腰	24	礼法・投げの形(第一教)
9	送足払	25	礼法・投げの形(第一教)
10	支釣込足	26	受身、礼法・投げの形(第二教)浮き腰
11	内股	27	受身、礼法・投げの形(第二教)浮き腰
12	投げの形、打ち込み、投げ込み、乱取り	28	受身、礼法・投げの形(第二教)払い腰
13		29	受身、礼法・投げの形(第二教)払い腰
14		30	受身、礼法・投げの形(第二教)釣り込み腰
15		31	受身、礼法・投げの形(第二教)釣り込み腰
16	中間試験	32	定期試験

教科書	南江堂 【全国柔道整復学校協会 監修】柔道「web動画付」
-----	-------------------------------

授業科目		柔道Ⅲ【実技】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	3	学期	前期	単位	1	時間	32	担当教員	高田 直樹（柔道整復師）

科目の特徴 (ねらい)	認定実技審査に必要な初段の形を学び、初段相当の技術習得を目指す。
成績評価	定期試験、学習態度 * 上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容
1	投げの形 乱取り
2	投げの形 乱取り
3	投げの形 乱取り
4	投げの形 乱取り
5	投げの形 乱取り
6	投げの形 乱取り
7	投げの形 乱取り 寝技乱取り
8	投げの形 乱取り 寝技乱取り
9	投げの形 乱取り 寝技乱取り
10	投げの形 乱取り 寝技乱取り
11	投げの形 乱取り 寝技乱取り
12	投げの形 乱取り 寝技乱取り
13	投げの形 乱取り 寝技乱取り
14	投げの形 乱取り 寝技乱取り
15	投げの形 乱取り 寝技乱取り
16	定期試験

教科書	南江堂 【全国柔道整復学校協会 監修】柔道「web動画付」
-----	-------------------------------

授業科目		職業倫理					【講義】	学 科	スポーツ柔整学科
学年	3	学期	後期	単位	1	時間	16	担当教員	中村 崇男

科目の特徴 (ねらい)	柔道整復師は開業する事も可能であるため、インフォームド・コンセントや患者中心の医療について考えながら、柔道整復師の立場、患者の立場双方からのリスクマネジメントができる人材を育成できるように講義していく。
成績評価	定期試験、学習態度 ※上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	職業倫理とは
3	パターナリズム
4	バイオエシックス
5	インフォームド・コンセント、守秘義務
6	柔道整復師の社会的責任
7	ケース・スタディ
8	定期試験

教科書	社会保障制度と柔道整復師の職業倫理 [全国柔道整復学校協会監修] 医歯薬出版株式会社
-----	---

授業科目		職業教育Ⅰ【講義】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	3	学期	前期	単位	1	時間	16	担当教員	米田 守（柔道整復師）

科目の特徴 (ねらい)	柔道整復師の取り扱う療養費について学ぶ。 また、実際の療養費の算定方法について理解を深める。
成績評価	定期試験により評価する。

回数	授業内容
1	療養費について
2	柔道整復療養費について
3	柔道整復療養費の支給対象
4	柔道整復療養費の推移
5	療養費の算定(料金、初検料、初検時相談支援料、時間外、休日・深夜加算、再検料)
6	療養費の算定(その他の施術料)
7	施術録・一部負担金
8	定期試験

教科書	社会保障制度と柔道整復師の職業倫理 [全国柔道整復学校協会監修] 医歯薬出版株式会社
-----	---

授業科目		職業教育Ⅱ【講義】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	3	学期	前期	単位	1	時間	16	担当教員	米田 守（柔道整復師）

科目の特徴 (ねらい)	施術行為以外の柔道整復業務について理解する。 施術録の書き方、療養費の請求について学ぶ。
成績評価	定期試験にて評価する

回数	授業内容
1	施術録の記載方法
2	支給申請書の作成方法
3	施術経過初見の記載方法
4	事例1
5	事例2
6	事例3
7	事例4
8	定期試験

教科書	社会保障制度と柔道整復師の職業倫理 [全国柔道整復学校協会監修] 医歯薬出版株式会社
-----	---

授業科目		社会保障制度【講義】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	3	学期	後期	単位	1	時間	16	担当教員	中村 崇男

科目の特徴 (ねらい)	社会保障制度を知ることにより、本来の社会保険等・療養費の「あり方」を学び、すべての国民の「健康と福祉を創造させる」今後の業界を担う次世代の柔道整復師を育成していく。
成績評価	定期試験、学習態度 ※上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容
1	オリエンテーション・社会保障制度
2	社会保険・年金保険・介護保険
3	労働保険・社会福祉・公的扶助・公衆衛生
4	医療保険・国民医療費の現状
5	療養費・現金給付・償還払い・受領委任払い
6	柔道整復術・受領委任の取扱規程
7	療養費の算定・施術録
8	定期試験

教科書	社会保障制度と柔道整復師の職業倫理 [全国柔道整復学校協会監修] 医歯薬出版株式会社
-----	---

授業科目		基礎柔整学Ⅰ【講義】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	1	学期	通年	単位	6	時間	96	担当教員	新井田 一吏(柔道整復師)

科目の特徴 (ねらい)	柔道整復学を学習する上で、基礎となる柔整理論の総論分野の十分な理解が必要な事は明白である。柔整理論・実技の各論においては圧倒的な量の知識と技術の習得せねばならず、その困難は大きなものである。 そこで、ここでは基礎となる柔整理論・総論の内容を理解し、その知識の定着を図ることを目的とする。
成績評価	定期試験、中間試験および学習態度 * 上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容	回数	授業内容	回数	授業内容
1	オリエンテーション	17	関節の損傷 (構造と機能・概説)	33	腱の損傷 (構造と機能・概説)
2	概説	18		34	
3	総論	19	関節の損傷 (分類・鑑別)	35	腱の損傷 (分類)
4	骨の損傷 (形態と機能・概説)	20		36	
5		21	関節の損傷 (脱臼・構成組織損傷)	37	腱の損傷 (症状・治癒機序)
6	骨の損傷 (分類)	22		38	
7		23	復習(関節の損傷)	39	復習(腱の損傷)
8	骨の損傷 (症状・合併症)	24	中間試験	40	
9		25	筋の損傷 (構造と機能・概説)	41	末梢神経の損傷 (構造と機能・概説)
10	骨の損傷 (小児・高齢者骨折)	26		42	
11		27	筋の損傷 (分類・症状)	43	末梢神経の損傷 (分類)
12	骨の損傷 (癒合・治癒経過)	28		44	
13		29	筋の損傷 (治癒機序・予後)	45	末梢神経の損傷 (症状・治癒過程)
14	骨の損傷 (予後・治癒影響因子)	30		46	
15		31	復習(筋の損傷)	47	復習(末梢神経の損傷)
16	復習(骨の損傷)	32		48	定期試験

教科書	柔道整復学理論編 改訂第7版[全国柔道整復学校協会監修] 株式会社南江堂
-----	---

授業科目		基礎柔整学Ⅱ 【講義】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	1	学期	通年	単位	4	時間	64	担当教員	新井田 一吏(柔道整復師)

科目の特徴 (ねらい)	柔道整復理論を学習する上で、解剖学の知識の十分な定着と理解が必要な事は明白である。しかし、解剖学では圧倒的な量の名称と事実を主に机上で理解し習得せねばならず、その困難は大きなものである。そこで、ここでは柔道整復理論に必要な解剖学の内容を整理し、その知識の確実な定着を図ることを目的とする。また柔整理論・総論の診察・治療に関する基礎となる知識を理解する目的として行う。
成績評価	定期試験、中間試験および学習態度 * 上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容	回数	授業内容
1	オリエンテーション	17	診察
2	骨格系総論	18	治療法(整復法)
3	解剖学的用語	19	
4	骨の連結	20	治療法(固定法)
5	基本面と基本軸	21	
6	脊柱の骨・関節	22	治療法(後療法)
7	胸郭の骨・関節	23	
8	上肢の骨・関節	24	復習(診察・治療法)
9	下肢の骨・関節	25	
10	筋系総論	26	指導管理
11	胸部の筋	27	
12	背部の筋	28	外傷予防
13	上肢の筋	29	
14	下肢の筋	30	復習(指導管理・外傷予防)
15	頸部の筋	31	
16	中間試験	32	定期試験

教科書	資料配布 柔道整復学理論編 改訂第7版[全国柔道整復学校協会監修] 解剖学 改訂第2版[全国柔道整復学校協会監修] 医歯薬出版株式会社
-----	---

授業科目		外傷の保存療法の経過及び治癒の判定 【講義】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	3	学期	後期	単位	1	時間	16	担当教員	本木 利之（柔道整復師）

科目の特徴 (ねらい)	本講義では、各外傷の固定法の実際とそのクリニカルパスについて学ぶ。
成績評価	定期試験、学習態度 * 上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容
1	鎖骨骨折と肩鎖関節脱臼の固定
2	上腕骨骨幹部骨折の固定
3	肩関節脱臼と肘関節脱臼の固定
4	コーレス骨折の固定
5	中手骨頸部骨折の固定
6	PIP関節背側脱臼の固定
7	下腿骨骨幹部骨折とアキレス腱断裂の固定
8	定期試験

教科書	柔道整復学 実技編 改訂版第2版[全国柔道整復学校協会監修] 株式会社南江堂
-----	---

授業科目		スポーツ臨床柔整学Ⅰ【講義】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	2	学期	通年	単位	6	時間	96	担当教員	新井田 一吏(柔道整復師)

科目の特徴 (ねらい)	柔道整復術は国民医療の一端として広く大衆に受け入れられ、民族医学として伝承されてきた。現在の医療界において柔道整復師が担っている社会的役割は多岐にわたるが、外傷の専門家としての位置付けから考えると整形外科分野と重複し、独自の理論が必要となってきた。業務範囲や今後の方向付け、業務の正しい理解を促し、今後の学習の基礎を形成することを目的とする。
成績評価	定期試験、中間試験および学習態度 * 上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容	回数	授業内容	回数	授業内容
1	オリエンテーション	17	上肢の骨折 (前腕骨遠位端部)	33	上肢の脱臼 (MP・IP関節)
2	上肢の骨折 (鎖骨)	18	上肢の骨折 (手根骨部)	34	
3		19		35	復習(上肢の脱臼)
4	上肢の骨折 (肩甲骨)	20	上肢の骨折 (中手骨部)	36	上肢軟損 (肩関節部)
5	上肢の骨折 (上腕骨近位部)	21	上肢の骨折 (指骨)	37	
6		22		38	
7		23	復習(上肢の骨折)	39	上肢軟損 (上腕部)
8	上肢の骨折 (上腕骨骨幹部)	24	中間試験	40	上肢軟損 (肘関節部)
9	上肢の骨折 (上腕骨遠位部)	25	上肢の脱臼 (鎖骨)	41	
10		26		42	上肢軟損 (前腕部)
11	上肢の骨折 (前腕骨近位部)	27	上肢の脱臼 (肩関節)	43	
12		28		44	上肢軟損 (手関節部)
13	上肢の骨折 (前腕骨骨幹部)	29	上肢の脱臼 (肘関節部)	45	
14		30		46	上肢軟損 (手部・指部)
15	上肢の骨折 (前腕骨遠位端部)	31		47	
16		32	上肢の脱臼 (手関節)	48	定期試験

教科書	柔道整復学理論編 改訂第7版[全国柔道整復学校協会監修] 株式会社南江堂
-----	---

授業科目	スポーツ臨床柔整学Ⅱ【講義】					学 科	スポーツ柔整学科
学年	2	学期	通年	単位	6	時間	96
						担当教員	佐藤 陽子・大久保 英俊

科目の特徴 (ねらい)	柔道整復術は国民医療の一端として広く大衆に受け入れられ、民族医学として伝承されてきた。現在の医療界において柔道整復師が担っている社会的役割は多岐にわたるが、外傷の専門家としての位置付けから考えると整形外科分野と重複し、独自の理論が必要となってきた。業務範囲や今後の方向付け、業務の正しい理解を促し、今後の学習の基礎を形成することを目的する。
成績評価	定期試験、中間試験および学習態度 * 上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容	回数	授業内容	回数	授業内容
1	骨盤部：機能解剖	17	膝関節：機能解剖	33	下腿骨骨幹部骨折
2	骨盤骨骨折	18	大腿骨遠位部骨折	34	
3		19	下腿骨近位部骨折	35	
4	股関節：機能解剖	20	膝関節脱臼	36	下腿部の軟部組織損傷 (アキレス腱断裂、下腿三頭筋肉離れ)他の軟部組織損傷
5	大腿骨近位部骨折	21	膝蓋骨骨折	37	
6		22	膝蓋骨脱臼	38	その他の注意すべき疾患
7		23	膝関節部軟部組織損傷 (MCL,LCL,ACL,PCL,MM,LM)他の軟部組織損傷	39	足関節：機能解剖
8	股関節脱臼	24		40	下腿骨遠位部の骨折
9	股関節の軟部組織損傷	25		41	下腿骨遠位部の骨折
10	注意すべき疾患	26		42	
11	大腿部：機能解剖	27		43	足根骨骨折、足関節の脱臼、足関節捻挫
12	大腿骨骨幹部骨折	28		44	足・足趾部：機能解剖
13	大腿部打撲	29		45	足根骨骨折、中足骨骨折
14	大腿部肉離れ	30	下腿部：機能解剖	46	趾骨骨折、足根部脱臼
15	大腿部骨化性筋炎	31		47	足趾間関節脱臼、中足趾関節脱臼
16	中間試験	32	中間試験	48	定期試験

教科書	柔道整復学理論編 改訂第7版[全国柔道整復学校協会監修] 株式会社南江堂
-----	---

授業科目		スポーツ臨床柔整学Ⅲ【講義】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	2	学期	後期	単位	2	時間	32	担当教員	佐藤 陽子

科目の特徴 (ねらい)	柔道整復術は国民医療の一端として広く大衆に受け入れられ、民族医学として伝承されてきた。現在の医療界において柔道整復師が担っている社会的役割は多岐にわたるが、外傷の専門家としての位置付けから考えると整形外科分野と重複し、独自の理論が必要となってきた。業務範囲や今後の方向づけ、業務の正しい理解を促し、今後の学習の基礎を形成することを目的とする。
成績評価	定期試験、学習態度 ※上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容
1	頭部、顔面部の損傷：頭部顔面部の機能解剖、頭部顔面部の骨折
2	
3	頭部、顔面部の損傷：顎関節脱臼
4	頭部、顔面部の損傷：軟部組織損傷
5	頸部の損傷：頸椎の機能解剖、頸椎骨折、頸椎脱臼
6	
7	頸部の損傷：軟部組織損傷
8	
9	
10	胸、背部の損傷：胸背部の機能解剖、肋骨骨折、肋軟骨骨折
11	
12	胸、背部の損傷：胸椎骨折、胸椎脱臼
13	胸、背部の損傷：軟部組織損傷
14	腰部の損傷：腰部の機能解剖、腰椎骨折、腰椎脱臼
15	腰部の損傷：軟部組織損傷
16	定期試験

教科書	柔道整復学理論編 改訂第7版[全国柔道整復学校協会監修] 株式会社南江堂
-----	---

授業科目		物理療法機器等の取扱い【講義】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	3	学期	前期	単位	1	時間	16	担当教員	新井田 一吏(柔道整復師)

科目の特徴 (ねらい)	物理療法は柔道整復師後療法の一つであり、医療機器を使用して行うものも含まれるため、専門知識を特に必要とする。この講義では1年で学習した総論を復習しつつ、実践的な内容も含めながら講義していく。
成績評価	定期試験、学習態度 * 上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	分類と禁忌
3	電気療法:低周波、干渉波
4	温熱療法:ホットパック、パラフィン浴
5	温熱療法:赤外線、マイクロ
6	超音波療法、寒冷療法
7	光線療法:レーザー、牽引療法
8	定期試験

教科書	柔道整復学理論編 改訂第7版[全国柔道整復学校協会監修] 株式会社南江堂
-----	---

授業科目		物理療法機器等の取扱い【講義】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	1	学期	後期	単位	1	時間	16	担当教員	新井田 一吏(柔道整復師)

科目の特徴 (ねらい)	物理療法は柔道整復師後療法の一つであり、医療機器を使用して行うものも含まれるため、専門知識を特に必要とする。この講義では1年で学習した総論を復習しつつ、実践的な内容も含めながら講義していく。
成績評価	定期試験、学習態度 * 上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	分類と禁忌
3	電気療法:低周波、干渉波
4	温熱療法:ホットパック、パラフィン浴
5	温熱療法:赤外線、マイクロ
6	超音波療法、寒冷療法
7	光線療法:レーザー、牽引療法
8	定期試験

教科書	柔道整復学理論編 改訂第7版[全国柔道整復学校協会監修] 株式会社 南江堂
-----	--

授業科目		柔道整復術適応の臨床的判定【講義】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	3	学期	前期	単位	2	時間	32	担当教員	本木 利之（柔道整復師）

科目の特徴 (ねらい)	近年、柔道整復師の骨折、脱臼に対する整復固定料が見直され、またこれに伴い骨折脱臼を避けずに取り組もうとする柔道整復師が増えてきている。代表的な骨折を中心にX線画像の判定を講義していく。
成績評価	定期試験、学習態度 * 上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容
1	手関節部の機能解剖
2	
3	評価:ウルナ・バリエーション
4	橈骨遠位端骨折
5	
6	橈骨遠位骨折:X-P判定
7	肘関節部の機能解剖
8	
9	評価:バウマンズ・アングル、ヒューター線
10	上腕骨顆上骨折
11	
12	上腕骨顆上骨折:X-P判定
13	前腕部機能解剖
14	
15	モンテギア骨折、評価:MUB
16	定期試験

教科書	柔道整復学理論編 改訂第7版[全国柔道整復学校協会監修]
-----	------------------------------

授業科目		総合学習Ⅰ【講義】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	3	学期	前期	単位	6	時間	96	担当教員	佐藤 陽子

科目の特徴 (ねらい)	柔道整復師の資格取得にあたり、国家試験科目の全てについて確実な知識を習得しなければならない。ここでは柔道整復学のみならず解剖学、生理学を交えながら国家試験に合格できる総合的学力を身につける事を目的とする。
成績評価	定期試験、中間試験および学習態度 * 上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容	回数	授業内容	回数	授業内容
1	柔道整復学に関連して全科目の基礎となる解剖学、生理学を中心とした演習および講義を総合的に行う。	17	柔道整復学に関連して全科目の基礎となる解剖学、生理学を中心とした演習および講義を総合的に行う。	33	柔道整復学に関連して全科目の基礎となる解剖学、生理学を中心とした演習および講義を総合的に行う。
2		18		34	
3		19		35	
4		20		36	
5		21		37	
6		22		38	
7		23		39	
8		24		40	
9		25		41	
10		26		42	
11		27		43	
12		28		44	
13		29		45	
14		30		46	
15		31		47	
16		32		48	定期試験

教科書	資料配付 柔道整復学 理論編 改訂第7版[全国柔道整復学校協会監修] 柔道整復学 実技編 改訂第2版[全国柔道整復学校協会監修] 株式会社南江堂
-----	---

授業科目		総合学習Ⅱ【講義】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	3	学期	後期	単位	6	時間	96	担当教員	佐藤 陽子

科目の特徴 (ねらい)	柔道整復師の資格取得にあたり、国家試験科目の全てについて確実な知識を習得しなければならない。柔道整復学を中心に関連する解剖学、生理学、病理学、運動学、一般臨床医学、リハビリテーション医学、関係法規、整形外科学、外科学概論の演習および講義を総合的に行う。
成績評価	定期試験、中間試験および学習態度 * 上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容	回数	授業内容	回数	授業内容
1	柔道整復学を中心に関連する解剖学、生理学、病理学、運動学、一般臨床医学、リハビリテーション医学、関係法規、整形外科学、外科学概論の演習および講義を総合的に行う。	17	柔道整復学を中心に関連する解剖学、生理学、病理学、運動学、一般臨床医学、リハビリテーション医学、関係法規、整形外科学、外科学概論の演習および講義を総合的に行う。	33	柔道整復学を中心に関連する解剖学、生理学、病理学、運動学、一般臨床医学、リハビリテーション医学、関係法規、整形外科学、外科学概論の演習および講義を総合的に行う。
2		18		34	
3		19		35	
4		20		36	
5		21		37	
6		22		38	
7		23		39	
8		24		40	
9		25		41	
10		26		42	
11		27		43	
12		28		44	
13		29		45	
14		30		46	
15		31		47	
16		32		48	定期試験

教科書	資料配付 柔道整復学 理論編 改訂第7版[全国柔道整復学校協会監修] 柔道整復学 実技編 改訂第2版[全国柔道整復学校協会監修] 株式会社 南江堂
-----	--

授業科目		総合学習Ⅲ【講義】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	3	学期	通年	単位	3	時間	48	担当教員	新井田 一吏(柔道整復師)

科目の特徴 (ねらい)	柔道整復師の資格取得にあたり、国家試験科目の全てについて確実な知識を習得しなければならない。ここでは柔道整復理論のみならず関連する関係法規、倫理学、社会保障制度、包帯学の問題演習を交えながら国家試験に合格できる総合的学力を身につける事を目的とする。
成績評価	定期試験、中間試験および学習態度 * 上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容	回数	授業内容
1	柔道整復学を中心に必修問題に関連する関係法規、倫理学、社会保障制度、包帯固定学、柔道整復師の臨床現場での常識について演習および講義を総合的に行う。	13	柔道整復学を中心に必修問題に関連する関係法規、倫理学、社会保障制度、包帯固定学、柔道整復師の臨床現場での常識について演習および講義を総合的に行う。
2		14	
3		15	
4		16	
5		17	
6		18	
7		19	
8		20	
9		21	
10		22	
11		23	
12	中間試験	24	定期試験

教科書	資料配付 柔道整復学 理論編 改訂第7版[全国柔道整復学校協会監修] 柔道整復学 実技編 改訂第2版[全国柔道整復学校協会監修] 株式会社南江堂
-----	---

授業科目		包帯固定学【実技】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	1	学期	通年	単位	2	時間	64	担当教員	米田 守（柔道整復師）

科目の特徴 (ねらい)	柔道整復師の包帯法は、歴史的に長い年月をかけて先人達が築きあげてきた独特の技術であり、主に臨床現場で師から弟子へと伝えられて来たものである。2003年に標準となる教科書が編纂されたが、教育現場でも一定水準の技術とその理論を伝えるため、臨床に基づいた技術の習得を目的とする。また講義は副子、ギプスなども多く取り入れより臨床に即した内容とする。
成績評価	定期試験、中間試験および学習態度 * 上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容	回数	授業内容
1	固定、固定材料の種類	17	部位別包帯法
2	包帯の巻き方の基礎と注意事項	18	
3	基本法帯法	19	
4		20	
5		21	
6		22	
7		23	
8	冠名包帯法	24	厚紙副子による固定
9		25	
10		26	
11		27	クラーメル(金属副子)による固定
12		28	
13		29	三角巾による堤肘
14		30	
15		31	さらし(晒)による固定
16	中間試験	32	定期試験

教科書	包帯固定学 改訂第2版[全国柔道整復学校協会監修] 株式会社南江堂
-----	-----------------------------------

授業科目		基礎柔整実技Ⅰ【実技】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	1	学期	通年	単位	2	時間	64	担当教員	米田 守（柔道整復師）

科目の特徴 (ねらい)	柔道整復術では、古くから運動器疾患に対する施術を行ってきたが、スポーツ人口の増加や高齢者人口の増加に伴ってその施術対象も増加し、習得すべき技術も多くを求められるようになった。運動器疾患の正確な診断を行うための基礎となるのは視診、問診に始まり触診法、理学的徒手検査法にある。本授業では初期研修として徒手検査法習得に加えて、柔道整復術における徒手治療法の根幹をなす手技療法、さらに運動療法の基礎的理解と基礎技術習得を目的とする。
成績評価	定期試験、中間試験および学習態度 * 上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容	回数	授業内容
1	身体計測法①	17	関節可動域測定①
2	身体計測法②	18	関節可動域測定②
3	手技療法①(基礎実技)	19	関節可動域測定③
4	手技療法②(基礎実技)	20	関節可動域測定④
5	手技療法③(基礎実技)	21	関節可動域測定⑤
6	手技療法④(基礎実技)	22	関節可動域測定⑥
7	手技療法⑤(基礎実技)	23	関節可動域測定⑦
8	手技療法⑥(基礎実技)	24	関節可動域測定⑧(復習)
9	運動療法①(基礎実技)	25	触診①
10	運動療法②(基礎実技)	26	触診②
11	運動療法③(基礎実技)	27	触診③
12	運動療法④(基礎実技)	28	触診④
13	運動療法⑤(基礎実技)	29	触診⑤
14	運動療法⑥(基礎実技)	30	復習
15	復習	31	復習
16	中間試験	32	定期試験

教科書	柔道整復学 理論編 改訂第7版[全国柔道整復学校協会監修] 株式会社南江堂
-----	--

授業科目		基礎柔整実技Ⅱ【実技】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	2	学期	通年	単位	2	時間	64	担当教員	米田 守（柔道整復師）

科目の特徴 (ねらい)	柔道整復師の固定法は、歴史的に長い年月をかけて先人達が築きあげてきた独特の技術であり、主に臨床現場で師から弟子へと伝えられて来たものである。2003年に標準となる教科書が編纂されたが、教育現場でも一定水準の技術とその理論を伝えるため、臨床に基づいた基礎技術の習得を目的とする。講義は副子、ギプスなども多く取り入れより臨床に即した内容とする。
成績評価	定期試験、中間試験および学習態度 ※上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容	回数	授業内容
1	アルミ副子による固定	17	ポリキャスト(熱可塑性材料) パタフライスプリント
2		18	
3		19	
4		20	ポリキャスト(熱可塑性材料) トゥーカバーブレース
5	プライトン(熱可塑性材料)による固定	21	
6		22	キャストライトギプス(ショートアーム)
7		23	
8		24	
9	ポリキャスト(熱可塑性材料) リスフランスプリント	25	キャストライトギプス(ショートルッグ)
10		26	
11		27	
12		28	キャストシーネ(U字シーネ)
13	ポリキャスト(熱可塑性材料) トライアンフスプリント	29	
14		30	
15		31	
16	中間試験	32	定期試験

教科書	柔道整復学 実技編 改訂第2版[全国柔道整復学校協会監修] 株式会社南江堂
-----	--

授業科目		臨床実技Ⅰ【実技】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	2	学期	通年	単位	3	時間	96	担当教員	米田 守（柔道整復師）

科目の特徴 (ねらい)	柔道整復師学校教育には教養試験OSCEとして認定実技審査が行われている。 この授業では認定実技審査に向けて基本的な臨床技能の習得を中心に、その他症例の多い外傷を加えつつ講義する。
成績評価	定期試験、中間試験および学習態度 * 上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容	回数	授業内容	回数	授業内容
1	オリエンテーション	17	肩鎖関節上方脱臼： 整復/固定	33	肘内障：整復
2	鎖骨定型骨折：整復/固定	18		34	
3		19		35	
4		20	肩関節前方烏口下脱臼： 整復/固定	36	肩腱板損傷：診察
5		21		37	
6		22		38	
7	上腕骨外科頸骨折：整復	23		39	上腕二頭筋長頭腱損傷： 診察
8		24		40	
9		25		41	
10	上腕骨骨幹部骨折：固定	26	肘関節後方脱臼： 整復/固定	42	第5指中手骨頸部骨折
11		27		43	
12	コーレス骨折：整復/固定	28		44	第2指PIP関節背側脱臼
13		29		45	
14		30		46	
15		31		47	
16	中間試験	32	中間試験	48	定期試験

教科書	柔道整復学 実技編 改訂第2版[全国柔道整復学校協会監修] 株式会社南江堂
-----	--

授業科目		臨床実技Ⅱ【実技】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	2	学期	通年	単位	3	時間	96	担当教員	本木 利之（柔道整復師）

科目の特徴 (ねらい)	柔道整復師学校教育には教養試験OSCEとして認定実技審査が行われている。 この授業では認定実技審査に向けて基本的な臨床技能の習得を中心に、その他症例の多い外傷を加えつつ講義する。
成績評価	定期試験、中間試験および学習態度 * 上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容	回数	授業内容	回数	授業内容
1	オリエンテーション	17		33	
2		18	ハムストリングス肉離れ: 診察	34	下腿骨幹部骨折: 固定
3		19		35	
4	膝関節側副靱帯: 診察/固定	20		36	
5		21	大腿四頭筋打撲: 診察	37	足関節捻挫: 診察/固定
6		22		38	
7		23		39	
8		24		40	
9	膝関節十字靱帯損傷: 診察	25	下腿三頭筋肉離れ: 診察	41	足関節: バスケット ウィーブテープ固定
10		26		42	
11		27		43	
12		28	アキレス腱断裂: 固定	44	足関節: フィギアエイト・ ヒールロックテープ固定
13		29		45	
14	膝関節半月板損傷: 診察	30		46	復習
15		31		47	
16	中間試験	32	中間試験	48	定期試験

教科書	柔道整復学 実技編 改訂第2版[全国柔道整復学校協会監修] 株式会社南江堂
-----	--

授業科目		臨床実技Ⅲ【実技】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	2	学期	後期	単位	1	時間	32	担当教員	佐藤 陽子

科目の特徴 (ねらい)	柔道整復師学校教育には教養試験OSCEとして認定実技審査が行われている。 この授業では認定実技審査に向けて基本的な臨床技能の習得を中心に、その他症例の多い外傷を加えつつ講義する。
成績評価	定期試験、学習態度 * 上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	肋骨骨折:固定(晒、厚紙副子固定)
3	
4	
5	
6	顎関節前方脱臼:整復/固定
7	
8	
9	
10	
11	(総合)復習
12	
13	
14	
15	
16	定期試験

教科書	柔道整復学 実技編 改訂第2版[全国柔道整復学校協会監修] 株式会社南江堂
-----	--

授業科目		画像診断実技【実技】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	3	学期	前期	単位	1	時間	32	担当教員	高田 直樹（柔道整復師）

科目の特徴 (ねらい)	超音波画像の読影方法について学ぶ。画像診断の実際を学び、柔道整復学の治療に活用できるようにする。運動器の超音波像を読影し、読影力を身につけ、疾患・障害に対する理解を深める。
成績評価	定期試験、学習態度 * 上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	肩関節
3	
4	肘関節
5	
6	手関節
7	
8	股関節
9	
10	膝関節
11	
12	足関節
13	
14	復習
15	
16	定期試験

教科書	超音波でわかる運動器疾患 診断のテクニック	メジカルビュー社
-----	-----------------------	----------

授業科目		総合実技【実技】						学 科	スポーツ柔整学科	
学年	3	学期	通年	単位	6	時間	96	担当教員	佐藤 陽子・本木 利之(柔道整復師)	

科目の特徴 (ねらい)	柔道整復術は国民医療の一端として広く大衆に受け入れられ、民族医学として伝承されてきた。1、2年次に学んだ柔道整復理論をもとに、柔道整復師が扱う外傷を実技を中心として学び、実践的な柔道整復学の正しい理解と習得を目的とする。また、ここでは整復法及び固定法のもならず、評価法および検査法などの手技の習得も重視した講義を行う。
成績評価	定期試験、中間試験および学習態度

回数	授業内容	回数	授業内容	回数	授業内容
1	オリエンテーション	17	肩関節前方烏口下脱臼: 整復/固定	33	大腿部損傷 (打撲・肉ばなれ):診察
2	鎖骨定型骨折:整復/固定	18		34	
3		19		35	
4		20		36	膝関節損傷:診察/固定 (靱帯・半月板損傷)
5	上腕骨外科頸骨折:整復	21	肘関節後方脱臼:整復/固定	37	
6		22		38	
7		23		39	下腿三頭筋肉ばなれ: 診察
8	上腕骨骨幹部骨折:固定	24	肘内障:整復	40	
9		25	肩腱板損傷:診察	41	下腿骨幹部骨折:固定
10	コーレス骨折:整復/固定	26		42	
11		27	上腕二頭筋長頭腱損傷: 診察	43	アキレス腱断裂:固定
12		28		44	
13	肩鎖関節上方脱臼: 整復/固定	29	肋骨骨折:固定	45	足関節捻挫:診察/固定 (テーピング固定含む)
14		30	第5指中手骨頸部骨折: 固定	46	
15		31	第2指PIP関節背側脱臼: 固定	47	
16	中間試験	32	中間試験	48	定期試験

教科書	資料配付 柔道整復学 実技編 改訂第2版[全国柔道整復学校協会監修] 株式会社南江堂
-----	--

授業科目		高齢者の外傷予防技術【実技】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	3	学期	後期	単位	1	時間	32	担当教員	米田 守(柔道整復師)

科目の特徴 (ねらい)	高齢者に対する外傷の予防が、要介護状態の予防となることを理解し、介護予防の運動を実践することの意義を学ぶ。 介護の必要な高齢者に対して、機能訓練指導員としての機能訓練に理解を深め、機能訓練の実践を学ぶ。 機能訓練として有効な運動について理解を深め、実践する能力を高める。
成績評価	定期試験による

回数	授業内容
1	ロコモティブシンドローム
2	高齢者の自立支援の理解①
3	機能訓練指導員と機能訓練①
4	機能訓練指導員と機能訓練②(評価)
5	機能訓練指導員と機能訓練③(個別機能訓練実施計画書)
6	機能訓練指導員と機能訓練④(機能訓練指導員の保持すべき知識、能力)
7	機能訓練指導員と機能訓練⑤(福祉用具の知識)
8	機能訓練で提供する運動と要点①(機能訓練の手順)
9	機能訓練で提供する運動と要点②(器具を用いない運動)
10	機能訓練で提供する運動と要点③(器具を用いない運動②)
11	機能訓練で提供する運動と要点④(簡単な器具を用いる運動)
12	機能訓練で提供する運動と要点⑤(股関節の運動能力を高める運動)
13	機能訓練で提供する運動と要点⑥(身体各部の運動)
14	機能訓練で提供する運動と要点⑦(運動メニューの例)
15	機能訓練で提供する運動と要点⑧(運動プログラムの例)
16	定期試験
教科書	柔道整復師と機能訓練指導 機能訓練指導員養成テキスト [全国柔道整復学校協会監修] 株式会社南江堂

授業科目		競技者の外傷予防技術【実技】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	3	学期	後期	単位	1	時間	32	担当教員	高田 直樹（柔道整復師）

科目の特徴 (ねらい)	各スポーツ特性を学び、その競技における予防技術の向上を図る。
成績評価	定期試験、学習態度 ※上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容
1	認定実技 固定総合練習
2	認定実技 固定総合練習
3	認定実技 固定総合練習
4	認定実技 固定総合練習
5	認定実技 固定総合練習
6	バスケットボール競技に多い外傷の特性
7	上記 実技(テーピング 包帯)
8	柔道脅威に多い外傷の特性
9	上記 実技(テーピング 包帯)
10	野球肘の特性
11	上記 実技(テーピング 包帯)
12	足関節捻挫の特性 エコー
13	上記 実技(テーピング 包帯)
14	サッカー競技に多い外傷の特性
15	上記 実技(テーピング 包帯)
16	定期試験

教科書	競技者の外傷予防 [全国柔道整復学校協会監修] 医歯薬出版株式会社
-----	-----------------------------------

授業科目		臨床実習前施術試験等【実技】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	2	学期	後期	単位	1	時間	32	担当教員	高田 直樹（柔道整復師）

科目の特徴 (ねらい)	柔道整復師学校教育には教養試験OSCEが行われている。この授業では臨床実習で実際の患者に接する前に、教養試験OSCEを用いて、臨床能力をテスト判断した上で、臨床実習に参加させる事を目的とする。
成績評価	定期試験、学習態度 ※上記により総合的に評価し60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	問診
3	視診
4	触診
5	バイタルサイン
6	局所症状の確認
7	合併症(血管、神経損傷)の確認
8	スペシャルテスト
9	スペシャルテスト
10	禁忌事項
11	復習
12	
13	
14	講義のまとめ
15	
16	定期試験

教科書	資料配付
-----	------

授業科目		臨床実習【実習】						学 科	スポーツ柔整学科
学年	3	学期	前期	単位	4	時間	180	担当教員	本木 利之・高田 直樹・新井田 一吏 (柔道整復師)

科目の特徴 (ねらい)	柔道整復師として柔道整復施術所などで行う業務について理解する。 診察、施術、事務などの作業を学ぶ。
成績評価	臨床実習施設の臨床実習指導者による実習評価表に基づいて評価する。

回数	授業内容	回数	授業内容	回数	授業内容
1	臨床実習の心得	31	外部実習 (スポーツ現場⑤)	61	外部実習 (スポーツ現場⑩)
2	臨床実習の心得	32	外部実習 (スポーツ現場⑤)	62	外部実習 (スポーツ現場⑩)
3	総合実習、臨床実践 (主に診察方法)	33	総合実習、臨床実践 (主に脱臼の整復について)	63	総合実習、臨床実践 (主に施術録の記載方法について)
4	総合実習、臨床実践 (主に診察方法)	34	総合実習、臨床実践 (主に脱臼の整復について)	64	総合実習、臨床実践 (主に施術録の記載方法について)
5	総合実習、臨床実践 (主に診察方法)	35	総合実習、臨床実践 (主に脱臼の整復について)	65	総合実習、臨床実践 (主に施術録の記載方法について)
6	総合実習、臨床実践 (主に診察方法)	36	総合実習、臨床実践 (主に脱臼の整復について)	66	総合実習、臨床実践 (主に施術録の記載方法について)
7	外部実習 (スポーツ現場①)	37	外部実習 (スポーツ現場⑥)	67	外部実習 (スポーツ現場⑪)
8	外部実習 (スポーツ現場①)	38	外部実習 (スポーツ現場⑥)	68	外部実習 (スポーツ現場⑪)
9	総合実習、臨床実践 (主に骨折の整復について)	39	総合実習、臨床実践 (主に脱臼の後療法について)	69	総合実習、臨床実践 (主に物理療法について)
10	総合実習、臨床実践 (主に骨折の整復について)	40	総合実習、臨床実践 (主に脱臼の後療法について)	70	総合実習、臨床実践 (主に物理療法について)
11	総合実習、臨床実践 (主に骨折の整復について)	41	総合実習、臨床実践 (主に脱臼の後療法について)	71	総合実習、臨床実践 (主に物理療法について)
12	総合実習、臨床実践 (主に骨折の整復について)	42	総合実習、臨床実践 (主に脱臼の後療法について)	72	総合実習、臨床実践 (主に物理療法について)
13	外部実習 (スポーツ現場②)	43	外部実習 (スポーツ現場⑦)	73	外部実習 (スポーツ現場⑫)
14	外部実習 (スポーツ現場②)	44	外部実習 (スポーツ現場⑦)	74	外部実習 (スポーツ現場⑫)
15	総合実習、臨床実践 (主に骨折の固定について)	45	総合実習、臨床実践 (主に捻挫について)	75	総合実習、臨床実践 (主に運動療法について)
16	総合実習、臨床実践 (主に骨折の固定について)	46	総合実習、臨床実践 (主に捻挫について)	76	総合実習、臨床実践 (主に運動療法について)
17	総合実習、臨床実践 (主に骨折の固定について)	47	総合実習、臨床実践 (主に捻挫について)	77	外部実習 (介護現場①)
18	総合実習、臨床実践 (主に骨折の固定について)	48	総合実習、臨床実践 (主に捻挫について)	78	外部実習 (介護現場①)
19	外部実習 (スポーツ現場③)	49	外部実習 (スポーツ現場⑧)	79	外部実習 (スポーツ現場⑬)
20	外部実習 (スポーツ現場③)	50	外部実習 (スポーツ現場⑧)	80	外部実習 (スポーツ現場⑬)

